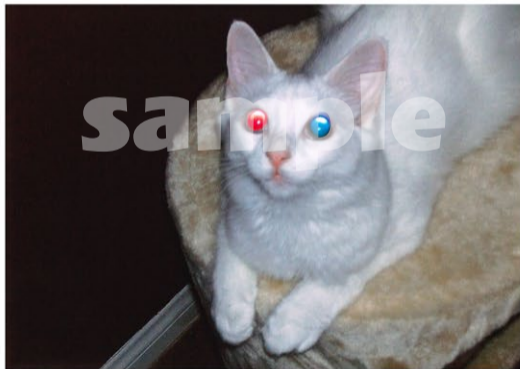


コニー いつもそばで
見^み守^{まも}っているよ



コニー いつもそばで
見^み守^{まも}っているよ



ぼく ねこ
僕 猫のアスランです。

くるま とお どう ろ す こわ ふる
車がたくさん通る道路に捨てられて 怖くてふるふる震えていると
どうぶつ ほ こ し せつ ひと ぼく たす
動物保護施設の人が 僕を助けてくれました。



あさ どうぶつ ほ こ し せつ せん せい い
ある朝 動物保護施設の先生が言いました。

「アスラン きょう おも はし まわ
「アスラン 今日からひろーいおうちで 思いっきり走り回れるよ。

アスランは今日からコニーのおうちの子だ。」

えっ!!! またどこかに連れて行かれるの？

ぼく
僕はドキドキしました。

くるま の あたら
車に乗せられて新しいおうちに
む あいだ
向かっている間も
ぼく こわ
僕は怖くて
め
目をつぶっていました。



すると コニーが

「アスランついたよ。

お庭にリスが遊びに来るよ。」と言いました。

おそろおそろ目を開けてみると

三角のお屋根のおうちが見えました。

おうちの中に入ってダンボールの箱から

そっと覗いてみると

ダンスの好きな三毛猫シルビアが ストレッチをしながら言いました。
「ようこそアスラン。あたしシルビアよ。ちょっと暴れん坊の
とら猫がいるけど あたしがいるから大丈夫。」



コニーのおうちは
おもちゃもたくさんあって
とっても楽しい所でした。
僕は嬉しくなりました。



とら兄^{にい}ちゃんは「俺^{おれ}様^{さま}が世^よの中^{なか}の厳^{きび}しさを教^{おし}えてやる。」と
猫^{ねこ}パンチ^しの仕^{かた}方を教^{おし}えてくれます。

ある日^ひ 三毛^{みけ}猫^{ねこ}シルビア^いが言^いいました。

「あのね アスラン。 アスランはま^あだ会^あったことないけど
このおうちにはお星^{ほし}様^{さま}にな^なった大^{おお}きいシンバ^いがや^やってくるのよ。
偶^{ぐう}然^{ぜん}アスランにそ^そっくりよ。」

sample





えっ！ 僕ぼくにそっくり？

会あってみたいなと思おもっているよ 「やあ。アスラン。」とお星様ほしさまになった
大おおきいシンバあらわが現あらわれました。

大おおきいシンバは生いきている時とき 耳みみが聞きこえなくて目めも見みえなかつたそうです。

でもとても勇ゆう気きのある立りっ派ぱな猫ねこだつた。 と とら兄にいちゃんいは言いいます。

大おおきいシンバから いろんことな事おしを教おしえてもらもらつたんだ。 と

とら兄にいちゃんいは自じ慢まんします。



ある時^{とき} なんだかコニーの元気^{げんき}がありません。

「コニーなんだか元気^{げんき}がないね。」

「そうね。 どうしちゃったのかしら・・・」

ある日^ひ コニーは倒^{たお}れてしまいました。

コニーのお医者様^{いしやさま}が言^いいました。

「コニーは重^{おも}い病^{びょう}気^きです。 あまり長^{なが}く生^いきられないかもしれません。」

ぼくはいつでも覚^{おぼ}えています。

コニーが僕^{ぼく}を迎^{むか}えに來^きてくれた日^ひの事^{こと}を。

その日^ひから ふわふわの暖^{あた}かいベッ^とで 眠^{ねむ}れるようになった事^{こと}を。



ぼくはコニーの身代わりになる決心をしました。

僕の体はみるみる痩せ細っていきました。

コニーは僕を動物病院へ連れて行きました。

獣医さんが言いました。

「アスランは重い貧血です。今日からお薬で治療しましょう。」

「しまった… お薬を飲むのは嫌いだ！」

僕はコニーが見ていない所で お薬を吐き出していました。

だってお薬苦いから。



そのうち僕はぼく体をからだ支えるささ事がこと辛つらくなってきました。

どこへでも自由じゆうに走り回れるお星様ほしさまになった

大きいおおシンバがうらや羨うらやましくなってきました。

コニーがしお仕事ことに行きました。

しめしめ今いまのうちだ。

大きいおおシンバがい言いました。

「アスランじゅんび準備じゅんびはいいかい？」

「大きいシンバ。準備じゅんびOKだよ。」

僕はぼく大きいおおシンバの背中せなかにおんぶされました。



からだ 体がほかほかして とてもいい気分になってきました。

はな お花のいい香りがします。

ほしさま お星様になった大きいシンバが言いました。

「ここに咲いている青いバラは 痛いのも 苦しいのも 怖いのも
かな 悲しいのも 全部取り除いてくれる花だ。」

「ほんとだね おお 大きいシンバ。 僕もうどこも痛くないよ。

からだ から 体が軽くて世界一周でも走れそうだよ。 いい香りだね。

し こと かも おどろ でもコニーお仕事から帰ってきたら きっと驚くね。」



み け ねこ
三毛猫シルビアが言いました。

「コニーおどろ驚くわよ。でも大丈夫だいじょうぶ。コニーの事ことは あたしがちゃんと
めん どう み
面倒見てあげるから。ね! とら。」 とらにい兄ちゃんにいが言いました。

「そうさアスラン。俺様おれさまもついているんだ。あんしんあんしんしろ。」

おお
大きいシンバ アスラン み け ねこ
三毛猫シルビア とらの会かい話わははずみます。
そこへコニーがかえ帰ってきました。



コニーは泣きながら

アスラン死なないで！ と心臓の止まった僕の体をお膝の上に置いて
心臓マッサージをしました。

コニーは諦めきれずに 動物病院へと車を走らせました。

今までは車に乗るのも僕は嫌で嫌で仕方なかったけど

今は体が軽くてなんとも言えないいい気分です。

コニー僕たちはいつでもそばにいるんだから寂しがらないで。

もう泣かないで・・・

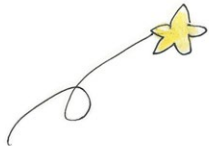


sample

コニーは諦あきらめました。

僕ぼくがお星様ほしさまになってから1週間しゅうかんが経たちました。

僕ぼくはずっとコニーのそばそばにいるのに コニーは気付きづきもしないで
ずっと泣ないています。



ぼく かな
僕もだんだん悲しくなってきました。

おお い
大きいシンバが言いました。

ゆめ かみ さま そう だん
「夢の神様に相談してみよう。」

ゆめ かみ さま い
夢の神様が言いました。

まばた とき
「コニーが瞬きをする時に

ゆめ み
わたくしが夢を見させてあげましょう。」



ある日^ひコニーが うとうとしていると

夢^{ゆめ}の神様^{かみさま}が現^{あらわ}れて言^いいました。

「バルコニーに葉^はっぱを咲^さかせたから 見^みてごらんなさい。」

コニーがバルコニーの葉^はっぱを見^みると こう書^かいてありました。



sample



アスランに会いたい時は 目を閉じてアスランと
3回呼んでごらんなさい。

コニーはさっそく目を閉じて アスランと3回つぶやいてくれました。
コニーは目の前の僕に気付いて笑顔になりました。

コニーやっと気付いてくれた。

僕は嬉しくなりました。

コニー僕ずっとそばで見守っているよ。



いしだえほん No.0067

コニー み まも いつもそばで見守っているよ

2018年10月22日 初版発行

文・イラスト すず すず 鈴音 鈴

印刷・製本・発行 **石田製本株式会社**
〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
<http://i-bb.co.jp/>

©2018 Suzu Suzune / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-66-1

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

ISBN978-4-909377-66-1
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税



9784909377661



1928771012000

